



所在地 鎌倉市御成町 19-1

建物概要

- ・構造 木造平屋建て 和風の造詣
- ・屋根 入母屋造、洋小屋組

建築面積 延べ面積 約 679 m²

建築年 昭和 8 年 (1933)

設計 蔵並長勝、鈴木富蔵、三橋幾蔵

管理者 鎌倉市

交通 JR 鎌倉駅西口徒歩 3 分



昭和 8 (1933) 年、鎌倉御用邸跡に建てられた御成小学校の建設にあたっては、多くの鎌倉町民の寄附と、鎌倉大工・職人たちの協力がありました。3 棟の校舎と講堂をそれぞれ名だたる棟梁が請け負い、協力し腕を競って建てたといわれています。

御用邸の歴史を伝える殿舎の趣を持つ建築で、2 つの塔屋を載せた入母屋造りの屋根が特徴です。全国的にも数少なくなってきた、和洋折衷の様式を持つ木造学校建築です。講堂内部は約 16m×25m の大空間を木造トラスの小屋組が支えています。北側の約 11m が講堂の舞台裏で、準備室や控室等を備え、南側の約 4m には物置やトイレがあります。これらに挟まれた約 25m 分が 1 つの大空間となり、天井高が約 5m 確保され、その格天井は鎌倉らしい風格を示しています。天井裏には前述の 2 つの排気塔がついています。また、アールデコの装飾も見ることができます。

昭和 12 (1937) 年、ヘレン・ケラーが来日した際にはここで講演が行われました。

今後は特別教室や多目的室など、学校施設として活用するため、平成 31 年度に改修工事に着手する予定です。

平成 29 年 (2017) 6 月 28 日に登録有形文化財に登録されました。